



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イエメン：ソマリア沖の海賊問題

(10月7日付 SABA 紙他)

1. 9月の最初の3週間の間に、少なくとも8回の海賊事案が発生し、数十人の船員が人質となった。同21日には、4人の海賊が3隻の高速艇で大型運搬船をのっとり、19名の船員を人質にした。国際海事局海賊リポートセンター(IMB)によれば66名に上る。
2. ソマリア沖海賊問題は、イエメンの治安及び経済情勢を直撃する。イエメン政府は9月初めに1000名の兵士を16隻の警備艇をしてアデン湾及びその領海に展開することを決定した他、「アフリカの角」周辺海域に展開する多国籍軍船舶との協力も行っている。
3. イエメン・コーストガード(YCG)長官のラーシウ准将は、海賊対策については様々な提案があるものの、予算面と技術面での不足が大きな妨げとなり、その多くが実施に至っていないと述べた。
4. 7日、YCGと仏海軍は、領海及び周辺公海上において共同軍事演習を開始した。YCG関係によれば、今後、15日間にわたる同演習では海事能力の確認、船舶検閲、海賊対処等の試験・訓練も行われ、国際海峡の安全確保に向けた取り組みが行われるとしている。
5. ソマリア当局は、8月21日に乗っ取られた日本船籍のケミカル・タンカー・アイリーンの乗組員は、160万ドルの身代金支払いを経て解放されたと発表。
6. 10日、NATO加盟国は、同国防相会議において、7隻のフリゲート艦を海賊対策及び加盟国船舶保護のために当該海域へ派遣することを決定した。NATO関係者によれば、フリゲート艦は2週間以内に当該海域に到着し、WFP(世界食料計画)等による支援のための船舶に対するエスコート要請に応える。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799